

対応の検討が必要な医療機能等について

No.	議論いただきたい事項	関連意見(第1回検討会)
1	集約化すべき範囲 (全県単位の高度小児医療・医療圏ごとの一般小児医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療資源を集約化し、質のいい医療を維持しないと、適切な医療が提供できない。 ・高度な医療機能を集約することは賛成。一方、呼吸器系と循環器系のケアを必要とする子ども達が地域で暮らしていくための医療提供体制が大きな課題。 ・高機能がある病院の分散化とネットワーク化という議論も必要ではないか。 ・せっかく地域に広げた障害児医療をまた集約するのはいかなものか。 ・在宅で看護している親御さんを中核病院や各地域の医師がバックアップしている中、医療資源をどのように配置するか。 ・新潟市と上越市の交通アクセスが厳しく、医療資源が集約化されると、厳しい状況になる。
2	小児集中治療(PICU)の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・集中治療を必要とする患者に対し、いろいろな専門家がいて、その人達がしっかりと治療を行い、命を助け、後遺症を少なくする、そこにフォーカスが置かれるべき。 ・PICUを中心に全身管理、重症を学ぶことは、全ての医療に通じるもので、若手が魅力を感じて誇りをもってやっていくためにも非常に重要なこと。そもそも県を跨ぐ時間の余裕がない場合は、そこが中心にやるべき。
3	本県における子どもの心の問題、発達障害等に対する医療体制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の子ども数がどんどん増えており、受診に1ヶ月待ちで、やっと思っても検査で3ヶ月待ちという事例もある。 ・深刻なのが子どもの心の問題、思春期の問題、発達障害。これらの問題は、医師と患者が一对一では取り組めず、コメディカルと連携しないと解決できない。
4	小児専門医療施設の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な、集学的な治療を受けなければならない患者を、各専門家が一つの病院で診療できるようにすることが必要。 ・今の新潟県が子ども病院をつくるのは経済的に難しいだろうが、県民にとって必要ならばつくるべきであり、何をつくるか皆で真剣に考えなければならない。 ・同じ県内で総合的な小児医療を受けられるというのが重要。 ・県内、全国で少子化が進む中で、人口規模を考えたとき、県内だけの集約で目標を達せられるのか検討すべき。
(小児専門医療施設の設置について)		
5	小児専門医療施設の機能、規模	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県の小児医療は何が足りないか、何をすればよいか分かれれば方向性がはっきりする。 ・全ての領域でというのはベストと思うが非現実的でもあり、本県にどうしても必要なもの、例えばPICUや、分野的に弱い悪性腫瘍・循環器で専門家や専門施設を増やすなど、方向性を決めたやり方で行うべき。
6	小児専門医療施設の設置場所、設置形態	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市からは、新潟市より長野の方が近く、新潟市なら、埼玉や東京までさほど時間はかからないという中、県内につくる必要性をしっかり議論すべき。 ・総論賛成だが、現実的に単独型は難しいという現状があり、どんな規模、形態、機能を持たせるかは、ある程度の絞って、本県ならではのあり方を検討すべき。